



## 現役の活動状況

### 第67回高校春季総合体育大会兼 第64回インターハイ予選

2013年4~6月

#### 男子

顧問・堀川 美子 (27期生)

[北ブロック大会・リーグ戦]

○ 寝屋川 21 - 16 三島

○ 寝屋川 17 - 16 淀川工

(7mスローコンテスト 4 - 3)

[北ブロック大会・トーナメント]

1回戦 ● 寝屋川 14 - 20 春日丘

昨年10月末に、新人大会で北千里高校に惜敗し、それから5ヶ月強の長い間、最終学年を迎える3年生を中心に、一から基本に戻って練習を始めました。

春休みには、部員全員体力・技術力ともに、成長が見られました。ただ、唯一メンタル面は、春休みの練習試合でも、調子の波がありました。

「誰かが、落ち込むと、みんなが引きずり込まれる」と、いう状態で、どうしたらそれを乗り越えられるのかが、課題として残っていました。

インターハイ予選の抽選は、部長が引き、春休み中に、練習試合をよく行った、三島高と淀川工に決まりました。

試合は、やってみないとわからないですが、負ける気は、していませんでした。

ただ、課題であるメンタルの弱さが、どう出るかだなと思っていました。

リーグ戦初戦は、淀川工に楽勝した三島高の、ダブルヘッター目の試合でした。

寝屋川の士気を高めるように、アップから気を使いました。

三島高は中学生からの経験者も多く、体格面でもたくましく、前半は点の取り合いで、気が抜けませんでした。

ただ、こちらの作戦がうまく当たり、選手たちもベストの状態でした。

後半は、三島高がバテてきたのか、足が止まり、寝屋川の速攻で、勝負が決まりました。

翌日の淀川工戦では、「寝屋川に、気の緩みがあったのか?」「淀川工の、調子がよくなったのか?」、昨日と同様に、行けると思ったのですが、そう簡単には勝てません。

寝屋川のペースで、試合は行われているのですが、ノーマークシュートを外す、簡単に相手にシュートを許す、退場させられるなどで、終了間際に1点取られ、同点にされ、結局7mスローコンテストになってしまいました。

もし、本戦で負けていたら、得失点差で三島高が、トーナメント出場という、結果になるところでした。

同点だったので、7mスローコンテストで負けたとしても、トーナメントに出場はできたのですが、ここは勝って、次のトーナメントに進みたいと、思いました。

会場は、最終試合の7mスローコンテストで、一気に盛り上がり、多くの見物人に見守られ、勝利の涙(マネージャー号泣)を流しました。

北ブロック大会・トーナメントの、対戦相手は春日丘高で、昨年の夏休みに、合同合宿で試合をした時には、ボロボロにやられてしまい、以降、練習試合を、一度もしていませんでした。

いざ、試合をやってみると、前半は9:9と対等に戦い、「これなら、勝てるんじゃないか?」と、私も選手も思ってしまいました。

後半が始まり、こちらが2点のリードで、「よし!!」と、思った途端、ムードが悪くなり、あれよあれよと言う間に、逆転されてしまい、残り5分で、5点差で負けていました。

3年生を全員出場させ、オールマンツォで対応しましたが、勝利を手にすることができませんでした。

寝屋川のメンタルの弱さなのか?、残念と言えば残念なのですが、3年生の1年時から比べると、「ここまで、よく伸びたなあ」と、思わず涙が出てしまいました。

3年生全員、これからは受験勉強に、頑張ります。

2年生9名と、1年生18名、それぞれの持ち味を生かして、新しいチーム作りを、始めます。

応援、よろしくお願いいたします。



#### 女子

顧問・赤星 明

[北ブロック大会・リーグ戦]

シードのため、試合なし

[北ブロック大会・トーナメント]

1回戦 ○ 寝屋川 18 - 11 桜塚

準々決勝 ● 寝屋川 8 - 15 千里青雲

3位決定戦 ● 寝屋川 7 - 7 北千里

(7mスローコンテスト 1 - 3)

北ブロック4位で、中央大会出場

[大阪府・中央大会]

1回戦 ● 寝屋川 11 - 24 泉陽

女子の北ブロックは、昨年と同じような展開で、今年も4チーム(寝屋川・千里青雲・北千里・箕面)が、しのぎを削っていました。

新人戦の決勝で、戦って敗れた北千里高と、3位決定戦で戦うことになりました。

前半は、2:2の、ロースコアの戦いになりました。

後半の最後、同点の時シュートが入って、「勝った!!」と、思いましたが、その1秒前に、オフィシャルがタイムアップの笛を吹いていて、ノーゴールになりました。

7mスローコンテストに入り、私は常々、「7mは先攻を取れ」と、言っていました。

最初のスローで、エースが決めて、チームを乗せたいからです。

この時も、エースのキャプテンが、最初にシュートを打ちました。ゴールインして、はしゃいでみんなと喜び合っている時に、レフリーから、「軸足が浮いた」と、いう判定をされ、ノーゴールにな



りました。

私には、不可解な判定だったのですが、レフリーは絶対です。

全員が、浮かれていたのも、あとの選手が不安でした。

やはり、思っていたとおり、次々と、寝屋川高は 7mスローをはずして、5人目の選手が打つことなく、敗れました。

負けはしたものの、新人戦の優勝チームの、北千里高相手に、ここまで戦えて、選手たちは、自信を持ちました。

大阪府・中央大会は、昨年同様、南ブロック1位の、泉陽高でした。

昨年は、前半勝っていたのに、後半ひっくり返され、12:14で、涙をのみました。

しかし、今年は、寝屋川高のサイドシューターがいいので、負けなと思っていました。

しかし、試合はやってみないとわからないもので、股下に狙ったシュートは、ゴールキーパーの股下を通して、ゴールポストの上に当たるシュートが、3本ぐらいありました。

肩が強い分、体育館でのシュートのボールが、跳ねすぎた感じでした。

最初は、リードしていたのですが、ディフェンスの甘さから、のべ7名の退場者が出てしまい、ゲームを作ることが、できませんでした。

こんなにも、多くの退場者が出た試合は、私の記憶には、ありませんでした。

本当に、ディフェンスで、自滅していったようでした。

このチームは、サイドシューターがうまい分、期待も大きかったのに、女子の試合は、本当にどうなるかわからないと、感じたゲームでした。

ゲームに出た2年生たちは、本当に責任を感じていました。

「自分たちのせいで、負けた」と、思っていました。

私は、その今の気持ちを忘れないで、先輩たちの分、「来年近畿大会に出場しなさい」と、言いました。

また、長くて短い1年が、始まりました。

苦しい戦いに、なると思いますが、応援、よろしく願いいたします。

## [現役の状況]

学年	男子	マネージャー	女子	マネージャー	合計
3年	7	0	14	1	22
2年	9	2	9	2	22
1年	18	2	12	1	33
合計	34	4	35	4	77



## OB・OG達の ハンドボール取り組み

### モッピークラブ

22期 小森園 多恵子

望月先生(4代目顧問)が亡くなられて、今秋で早や7年の月日が流れようとしています。

昨秋の7回忌を迎えての「望月先生を語る会」で、挨拶したように、「モッピークラブ」は、先生が監督をしてくださった最後のチームです。

依頼を受け、今ここに改めて、「モッピークラブ」の紹介をさせていただきます。

私たち「モッピークラブ」は、毎年夏に行われている、「全日本マスターズハンドボール大会」に参加することを目標に、活動しています。

この「全日本マスターズハンドボール大会」は、平成5年(1993年)に第1回大会が行われ、今年で21周年を迎えます。

当初は、教職員大会のマスターズ大会というカタチで、おこなわれたのですが、今では教職員のみならず、一定の年齢(男子40歳、女子35歳)以上なら、誰でも参加できるようになり、その規模も年々大きくなってきています。

私達のチームは最初、「大阪教員(ガンバルズ)」として参加し、第2回大会は、中山怜子さん(15期生)を監督兼選手に、小倉裕子さん(15期生)・中田順子さん(17期生)・津熊美智子さん(18期生)・菊池和代さん(21期生)・古本まみさん(22期生)・小森園

(22期生)・名賀三希子さん(23期生)・堀川美子さん(27期生)という、寝屋川OGのメンバーの他に、4人ほど他校の親しいメンバーが加わり、「ガンバルズ」として参加しました。

第3回大会は、諸般の事情で、不参加。

第4回大会と第5回大会は、望月先生に監督をお願いして、寝屋川OG以外のメンバーの了解を得て、「寝屋川クラブ」として、参加しました。

第6回大会からは、前年に行われた大阪国体(なみはや国体)のマスコットである、「モッピー」に因み、望月先生の愛称である「モッチャン」とをかけて、「モッピークラブ」に改称し、現在に至っています。

今年の第21回大会は、岩手県花巻市で行われますが、「モッピークラブ」としては、不参加だった第3回大会を除いての20回出場の、表彰を受けることになっています。

現在、世話役である吉田雅子さん(29期生)が、忙しい仕事の合間をぬって、寝屋川市の体育館などの練習場所の確保に走り回ってくれていますが、大会までにメンバーが揃うことは、ほとんどありません。

マスターズとはいえ、高齢化が進む一歩で、若手(?)の補充もままならず、今年は温泉旅行を主目的に、かなりの還暦過ぎのメンバーが、参加予定です。

望月先生が生前、「モッピークラブは、大阪ハンドの誇りだ」とまで、言ってくださった「灯」をなんとかとも、消すわけにはいきません。

先生の座右の名だった、「継続は、力なり」という言葉を支えに、また、大西武三さん(16期生)の言葉を借りれば、「80歳までは、杖をついてでもハンドボールを楽しむ」ために、なんとか世代交代をはかりたいと、思っています。

是非、35歳以上の若者(?)の参加を、お待ちしております。

来年の大会は、沖縄ですよ～!

### ヤングOGのハンドボールの取り組み

59期 北崎 千咲子

5年程前から、毎年6月と11月の年2回、豊中市民戦に、チーム名「レッドウルフ」として、出場しています。

チームは、現在59期生を中心に、前後の先輩・後輩で構成しています。

ハンドボールをする機会が少ない中で、皆んなで集まりプレーで



# 寝屋川クラブ会報

きる良い機会になっています。

・今年の試合予定

11月10日(日)、17日(日)、24日(日)

OGの皆さんの参加、お待ちしております。

連絡先：北咲 千咲子 (59期生)

メールアドレス：jajajajakki03@ezweb.ne.jp

携帯電話：090-6234-4048

## 若手男子OBの活動

堀川 美子 (27期生)

今年度より、寝屋川高の男子卒業生(63・64・65期)が、寝屋川市の中学生に、ハンドボールを教えています。(水曜・土曜、於寝屋川高校)

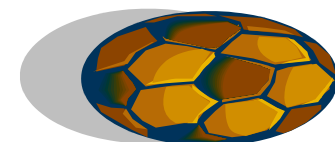
また、自分達も社会人チームとして、豊中市民戦に、出場したいと考えているようで、マメに練習に参加しています。

できれば、夏の合宿にも同行して、審判等、手伝ってくれば、ありがたいと話しています。

OB・OGの方々には、現役は、いつも金銭面での援助をいただき、ありがたく思っています。

できれば、手伝ってくれる卒業生にも、少しでも援助があれば、助かります。

よろしく、お願いいたします。



## [追悼特集]

### 初代会長 赤鹿 正剛 さん(3期生)を偲んで

3期 中嶋 直彦

正剛大兄、長年に亘り、OB・OG会のために、ご尽力頂きまして、有難うございました。

高校卒業式の後、御自宅での祝賀パーティの楽しさの記憶は、鮮明です。

大兄の御人柄と、持ち前の「徳」、今は只、万斛(ばんこ)の涙を流して「徳」を讃え、死を悼み、ご冥福を御祈りします。

私が余生を過すうえで、大兄は、私の心の中で、父母兄弟と同じように生きつづけています。

有難う、正剛大兄

5期 松本 由紀子 (旧姓、西田)

平成5年4月、OB・OG会発足以来、20年近くの長きにわたり、初代会長として、ひたすら、会発展のためにご尽力下さった、赤鹿会長の訃報に接し、奥様から「病状も落ち着き、退屈しているので、面会に行ってください」と、連絡を頂いた、その日のことだけに、ただ啞然とした日のことが、昨日のこの様に、思い出されます。

私が、平成7年に大槻先輩(3期生)の後を継いで、副会長に就任して以来、会長と一緒に、OB・OG会の行事である、「夏のナイター」「新年の懇親会」の度に、会長宅近くのお手スーパーまで、食料の購入に行きました。

また、会長はじめ、他の役員の方達と、60周年記念行事を、盛大に開催することも出来ました。

ただひとつ、故中出先生を偲ぶ会の残金を、中出家の墓前に永代供養料としてお供えさせていただいた報告を、会長の生前に出来なかったことが、心残りとして、悔やまれてなりません。

ここに、会長のご遺徳を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

20期 寺西 啓三

戦前の昭和15年の寝屋川高女時代に創部された、戦争を経た、昭和23年の学制改革により、誕生した新制寝屋川高校と共に、ハンドボール部も再興されました。

昭和20年代～30年代の黄金時代の現役時代とともに、「寝屋川クラブ」という名のもと、卒業OB・OG生による活動も又、全国的大会で活躍された時代もありましたが、今日までの間、幾度となく、中断したものでした。

そうした中、1990年代平成になり、40数年間行って来た、ハンドボールゲーム・試合中心の活動ばかりでなく、同期・先輩・後輩、夫々が個別に行っている親睦会等を、統一的に、継続性のあるものとして「寝屋川高校ハンドボール部OB・OG会」を創ろうと言う、気運・呼び掛けに、寝屋川高校ハンドボール部1期生とも言うべき、高校3期生の女子部大槻さんと、男子部赤鹿さんが話し合っ下り、1993年4月に、現在の「OB・OG会」が、発足し、初代赤鹿会長が誕生しました。

赤鹿会長は、高校卒業後、大学・社会人としては、ハンドボール

とは縁のない人生を送られましたが、「寝屋川高校ハンドボール」への愛着により、この約20年間、OB・OG会会長を、永く務めてくださいました。

又、ご自身、心臓病を患われ、心臓ペースメーカーを入れておられた中、昨年(2012年)7月末、病に倒れられ、入院されました。

その後、昨年の8月18日の「OB・OG会総会」「盆・サマーハンド会」開催前に、「今、入院していて、出席出来ない」と、ご自身より電話があり、9月上旬には「大分よくなってきた。遅くとも、年内には退院できると、思う」と少し、元気な声で電話を頂き、少し「ホッ」としたところでした。

ところが、9月21日に、奥様から赤鹿会長が亡くなられたとの、知らせがあり、恐れを抱いていたことが、現実となってしまいました。

この20年間の会長就任中、特に近年は、会長の健康状態・体力面から、会長後任問題を、決めなければと、思っていたところでした。

今回、この文章を書くにあたり、今一度、OB・OG会60周年記念誌等で、設立当時の、意気込み・目的等を改めて読み返し、現在900名弱の会員をかかえるOB・OG会として、赤鹿会長のご意思を継ぎ、現役への支援活動とともに、OB・OG会の活動の存続を心するところです。

赤鹿会長は、ご苦労様でした。

ありがとうございました。

## 訃報連絡

(1) 3期 三宅 徳子 (旧姓、杉野) 2013年5月17日逝去

会報では故人の方を偲ぶ、現役時代の活躍の状況・エピソード、卒業後の模様、人柄が偲ばれる思い出話等を、募っています。

今回の会報に同封の、別紙「会員だより」を、返信用封筒(事務局・20期寺西)でお送りいただくか、次のメールアドレスにお寄せください。 [kkteranishi@yahoo.co.jp](mailto:kkteranishi@yahoo.co.jp)

次号の会報で、紹介させていただきます。





## 2013年

### 正月ハンドボールの報告

今年も1月12日(土)、母校寝屋川高校グラウンドで、58名のOB・OG、現役の参加のもと、正月ハンドボールが行われました。

当日は1月にもかかわらず、晴天で暖かい日でした。

ここ数年は、赤星・堀川先生の助力もあり、現役男女1・2年生の部員数も多く、活気あふれプレーとともに、今年は、直近の若手卒業生の参加も増え、元気をもらう事が出来ました。

続く、第2部新年会は、今年は学生食堂で、北岡先生、赤星先生、堀川先生が出席くださり、豚汁・おしるこを食べながら、恒例のビンゴゲームで懇談が広がりました。

次回、8月盆・サマーハンドボール会には、現役に負けずにOB・OGの皆さんの、多数の参加をお待ちしています。



## 2013年 総会・盆サマーハンドボールのご案内

現役男女が、元気です

**OB・OGの皆さんの、多数の参加を、  
お待ちしております**

今年度の第21回総会、及び、盆・サマーハンドボールを、現役の秋季大会(8月6~11日)の関係もあり、下記日程で行います。

現役とOB・OGの親睦練習試合、恒例のビンゴゲーム・飲み物・軽

食・スナック等を用意します。

近年は、現役男女が活気があるのに比べ、OB・OGの参加が、少しさびしくなっています。

現役への応援の意もこめ、お互い声を掛け合い、誘い合うなどして、一人でも多くのOB・OGの皆さんの参加を、お待ちしております

日時：平成25年8月17日(土)

雨天：親睦試合、中止

総会	： 15:00 ~	セミナーハウス
親睦試合	： 16:30 ~	ハンドボールコート
懇親会	： 18:15 ~19:15	ハンドボールコート
2次会	： 19:30 ~	がんこ寿司寝屋川店
会費	： 500円	

### 会計よりの、御礼とお願い

**井上 武久(23期)**

会員の皆様には、平素より本会の運営に、ご理解とご協力いただきますとともに、次掲の、平成24年度年(2012.7~2013.6月)OB・OG会費納入者の方には、厚く御礼申し上げます。

今後とも、会費の趣旨をご理解いただき、本会の発展、並びに、円滑な運営を行うため、平成25年度(2013.7~2014.6月)の年会費の払い込みにつきましても、会員各位のご協力を、よろしくお願い申し上げます。



払い込みには同封の郵便振替払込書、又は、銀行振込みでお願いいたします。

・郵便局利用

口座番号 01100-6-73829

加入者名 寝屋川クラブ

(注) 金額欄には「¥」を、書かないで下さい。

この振込用紙には通信欄もありますので、会の運営に対

しての、ご意見や近況報告など、ご自由にお書きください。

銀行振込利用

振込銀行 住友銀行 川西支店

口座番号 普通預金 1011226

口座名義 寝屋川クラブ 井上武久(イノウエ タケヒサ)

※年会費：社会人 5,000円

学生 免除

(正月、盆・サマーハンドへの参加を、優先する為の、運用上の特別扱いとします。)

### 平成24年度(2012.7~2013.6月)会費納入者

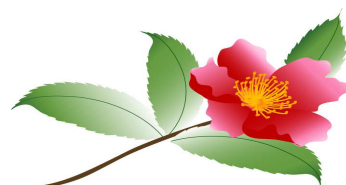
2013.6.30現在

- 3期 睦月欣子 森広洋子 大槻明子 村田芳子 梅垣修三  
細川宗雄 中嶋直彦
- 5期 松本由紀子 中東義治 樋上重夫
- 6期 望月滋乃 多田恵美子
- 7期 金馬桂子 川上曙美
- 9期 高島美世子 太田敦子 長澤邦子 大宮淑子
- 12期 尾亀敬子 中澤三津子 岩崎由喜子
- 13期 土井利勝 平井謙二
- 15期 小倉裕子
- 16期 木野実 新堂達夫
- 17期 中田順子 深水汎代 川口宗一郎
- 18期 木村圭子 谷村千津子 津熊美智子 木村慶次
- 19期 平井晴美 寺東邦子 吉田裕紀
- 20期 寺西啓三
- 21期 菊池和代 今堀太逸 藤田敏裕 内田一男 松尾信一郎
- 22期 小森園多恵子 古本まみ
- 23期 名賀三希子 井上武久 葛木啓之
- 24期 小合省三
- 26期 地原繁信
- 27期 堀川美子 渡部安晴
- 29期 甫田裕佳理 久松俊美



# 寝屋川クラブ会報

30期 野際登美子 鄭秀紀  
 33期 久木久美子  
 40期 澤田かおる  
 41期 安田郁  
 43期 小林恭子  
 59期 北崎千咲子



## 「第8回ウエルネス・ハンドボール・フェスタ」を終えて

16期 新堂 達夫

これまで「ウエルネス・ハンドボール・フェスタ」について、OB・OG会の皆様に協力の依頼文を「会報」に2回投稿させていただいております。

そのお陰で「第8回ハンドフェスタ」には、松尾 信一郎（21期生）・谷 和哉（44期生）の両氏から、協力の申し出をいただきました。

こうして、寝屋川高校ハンドボール部OB・OGの方々の力は、小学生のハンドボール発展に、さらに大きく貢献しています。

今後も、更にも多くのご協力を、お願い致します。

さて、「第8回ハンドフェスタ」を、2012年10月7日（日）に、「舞洲アリーナ」を会場として、実施しました。

体育館で、コート3面を使って試合ができるという、好条件を生かすために、大阪府以外の、近畿各府県のクラブにも、参加の呼びかけをしました。

その結果、12クラブ・27チーム（大阪7クラブ・17チーム、兵庫4クラブ・8チーム、奈良1クラブ・2チーム）という、過去最高の参加者を、得ることができました。

試合前に、コートのラインテープを貼ったり、ゴールポストや机・椅子などの用意を、大会運営スタッフや各クラブのみなさんの協力を得て、会場準備を整えることができました。

開会式では、木野 実さん（16期生・元五輪代表選手）が、会場に足を運び、この大会と、子どもたちへの激励のメッセージを、語ってくれました。

子どもたちの試合ぶりは、新しいチームの参加を多数得ることで、新鮮な好ゲームが、随所に展開されました。

一方、力の差が大きい試合もありましたが、その経験を生かして、

今後の練習に励むことで、より楽しくゲームができるよう、頑張っ  
て欲しいと願っています。

私たちは、「第9回ウエルネス・ハンドボール・フェスタ」を、  
今回を上回るクラブ・チームの参加を得て、実施したいと、考えて  
います。

小学生たちが、ハンドボールに親しむ機会が増えるということは、  
まさしく、中学生や高校生のハンドボール界の発展に、つながって  
いくことでしょう。

「寝屋川ハンドボール部OB・OG会」の会則には、「4. ハンドボ  
ール競技の普及にかんする事業」と、明記されています。

この会則の趣旨を生かすために、「ウエルネス・ハンドボールフェ  
スタ」に対して、OB・OG会として更なるご協力・ご援助をいただ  
ければ、幸甚です。

なお、今年は11月4日（祝）に金岡公園体育館にて、「第9回ウ  
エルネス・ハンドボール・フェスタ」を、実施します。

多数の方々が、小学生たちの試合ぶりを観戦し、応援していただ  
ければ、ありがたいです。

ぜひ、よろしくお願い致します。

連絡先：新堂 達夫（16期生）

メールアドレス：dtscn584@ybb.ne.jp

携帯電話：090-8365-1833



## 会員リレー伝言板

15期 木元 計司

ハンドボールだけの、高校生活でありました。

本音は、甲子園への夢があり、甲子園出場の実績のある、野球部  
に入るつもりでした。

入学直前に、ある事情から、断念することになり、他に全国レベ  
ルのクラブに何があるかを、中学の恩師に相談したところ、「女子の  
ハンドボールが、全国優勝の実績があり、その中出先生が、男子も  
指導されるようになっていて、期待できるよ」と教えられ、同じタ

イミングで中学の先輩（14期、斉藤さん）からの勧誘もあり、即、  
入部を決意しました。

その時代は11人制の時代で、入部当時、部員は、3年生が8人、2  
年生が6人、1年生は2人でした。

その充実した上級生が、中出先生（3代目顧問）の指導の下、ドリ  
ブルを使わない、パスワークのみでのフォーメーションで、大阪大会  
を制覇し、念願のインターハイ出場を、果たしました。

尚も、初出場で全国ベスト4という実績に輝き、みんなで涙した  
ことが、目に焼き付いています。

その実績を持って、秋の国体の出場も、果たしました。

国体の出場枠は、15人の制約があり、2学期になり、1年生の部員  
も数名、増えていたのですが、最後の1枠に選んでもらった時は、  
大変感激しました。

6月までの3ヶ月間は、野球への未練もあり、悩んだこともありま  
したが、この時を期に、ハンドボールだけに打ち込む決意をしたこと  
を、しっかりと覚えています。

しかし、あくまでも、ボールボーイの役割りでしかなかったので、  
来年は自分の力で、全国大会へ出場するぞ、そして、同じ苦しい練  
習をするなら、全国大会に出場しなければ、意味がないと思ったの  
も、この時期でした。

ところが、2年生になった時、退部等により、部員が8名となり、  
全国大会どころではない、危機に陥りました。

幸い、16期生の1年生が6人、入部してくれました。

彼らは、嫌が応でも、即戦力であり、それぞれのポジションを、  
任せなくてはなりません。

自分の1年生の時とは、雲泥の差です。

中出先生も、この年は、期待されていなかったと思いますが、幸  
い優秀で、粒ぞろいの1年生に助けられ、パスワークだけのフォー  
メーションを、短期間で曲りなりに承継し、また、怖いもの知らず  
の1年生のディフェンスの強さで、目標のインターハイ出場を、果  
たす事が出来たのです。

最後の年は、新1年生を加え、充実した2年生を中心としたチ  
ーム編成で、この年は選手以上に、中出先生は、本気で全国制覇を視  
野に入れておられたと、思います。

この年の梅雨は、今年と違って、ドシャ降りが、2週間続きました。

ラインも引けない、水浸しのグラウンドで、雨の中の練習を続けま  
したが、1週間続けた時に、健康面と精神面に限界を感じ、室内練習  
に切り替えましようかと、先生に申し入れたのですが、「本当に、全  
国で勝ちたいのか？、そんな気持ちでは、大阪ですら、勝てない  
ぞ」と、厳しく論され、涙したこともありました。



## 寝屋川クラブ会報

その時、その結果を期待して、待機していた全員に、「やっぱり、外でやるぞ」と、伝えた時には、きつい練習よりも、非常に辛い思いをしたことが、強く心に残っています。

そうしたこともあって、よりチーム一丸となることが出来、大阪を制することが出来ました。(11人制、最後の年度)

しかし、インターハイでは残念ながら、2年前を超えることが出来ず、大きな歴史を創ることは出来ませんでした。自分としては、充実した3年間のハンドボール生活でした。

ちっぽけな自分が、全国大会に出場することが出来たのは、同僚をはじめ、先輩や後輩のおかげであり、そのチームワークでもって、中出先生の指導をやり通した結果だと、思っています。

練習生であり、育成レベルであった1年生の時は、毎日がボールの手入れ、コートライン引き、ネット張り等が日課でしたが、昼休みのボールの手入れには、2年生も3年生も手伝ってくれました。(当時のボールは、皮製でチューブに空気を入れ、皮ひもをニードルで締めた後、皮質を保護する為に、縫い目にワセリンを塗って仕上げるという、手間のかかるものでした。)

中出先生は「伝統は、引き継ぐものではなく、積み重ねて、作り上げるものだ」と、よく云われました。

プレーや、試合の結果だけではなくて、人間味あふれるチームカラーや、雰囲気でもって、グラウンド以外でも、そのチームワークを発揮し、血の通った人間関係を積み重ねていくことこそが、伝統だと思います。

昨今、部活における、体罰や暴力事件等が、社会問題になっていますが、そんなことのカケラすら感じなかった、3年間のハンドボール生活は、よき同僚、よき先輩方、よき後輩達、そして、中出先生というよき指導者に恵まれた、すばらし人生の1ページでありました。

さて、次へのリレーは、ボックスとして、強烈なボディチェックで活躍された、16期生の柴田君に、お願いします。

### 23期 竹平 富美子 (旧姓、谷垣)

今回、葛木君(23期)より、指名をうけ(お元気ですか)、連絡をいただいた、谷村先輩(18期)のお声を聞いたとたん、何か、天岡先生(保健体育、担当)のお寺で合宿をした夏の日を、懐かしく思い出しました。

伝統ある、寝屋川高校ハンドボール部でしたから、日ごろの練習はいわずもがな、合宿にまで、来てくださった先輩方の、厳しい指導に、有難いやら、緊張するやら。

そんな合宿中、暑い部屋で寝やすいようにと、ウチワで私たちを

あおいでくださった、先輩の姿に、とても感激したのを、覚えています。

中学時代、私は、何度か運動部に入部しましたが、体力がなく、続きませんでした。

でも、中学の保健の時間に先生が、「外国に行きたいなら、寝屋川のハンドボール部にはいると、いいぞ」と、おっしゃったのです。

おかげで、何故か、「寝屋川高校ハンド部＝海外」という図式が、私の中では、出来上がっていました。

その時の先生の一言が、ハンドボール部入部のきっかけでした。

今考えると、恥ずかしく、大きな誤解でしたが、高校では少々体力もつき、何とか3年間ハンドボール部に、在籍することができました。

今、私は体操好きの人たちと、定期的に身体を動かしています。

ハンドボールのような激しい動きは、もうできませんが、まあ年相応には動けると、思っています。

また、地域体操リーダーの団体にも所属し、果たせなかった「ハンドボール＝海外」という、夢を実現しています。

それは、4年に一度、ヨーロッパの国で開催される世界体操祭ですが、これは、競う競技ではないので、条件さえあれば、誰でも参加できるものです。

先日は、フィンランド体操協会の招待で、フィンランド国内の体操祭に、参加してきました。

理解し、応援してくれる家族に感謝し、動ける身体を保ちつつ、結構楽しんでます。

次は、(やさしかった)一年先輩の、川原さんに、お願いします。



### 34期 安田 朋代

思いがけず、ハンド部の会報リレーがまわってきましたので、ものすごくご無沙汰している先生方、先輩、同期の皆さまに、ご挨拶も兼ねて、寄稿させていただくことにしました。

昨年、卒業30周年という同窓会に、そんなに月日が経ったなんて信じられないけど、紛れもない事実だと我にかえて、参加したことがきっかけで、懐かしい顔や、見てもまったく思い出せない顔、面影はあるものの信じられない変容を遂げた顔、(このへんで、詳細は省いて)などの同級生に会うことができ、感慨ひとしおでした。

思い出せば、寝屋高に入学してクラブは何部に入ろうかと、グラウンドを見学していたところ、竹林(ちくりん)先生に、「おまえ、クラブ迷ってんのか?」と、声をかけられたことが、ハンド部入部の、そもそものきっかけでした。

そこは体育館の外側の、ハンドコートに面したスペースで、陸上部が柔軟体操をしていました。

「陸上部は、どや?」と、先生が私の肩をばんばんと叩いて、スカウト?するのです。

短距離とか、ハードルを想像して、「陸上部の経験はないのですが、だいじょうぶでしょうか」と、お聞きすると、「いけるで一、その肩。槍(やり)投げ選手探しとるんや。いけるで!」と、先生。

高1で、少しだけ幅広の肩に、筋肉をうっすらまとった普通の女子だった私は、そのとき、「ぜったいに陸上には、入らない」と、心に決め、振り返って、そこにあったハンドコートに突き進んで、ハンドボール部に興味あります、と宣言したのでした。

つまり、いわば傷心からの衝動的な入部で、動機らしいものはなかったことを、告白いたしますが、実際のところ、ハンドボールは高校から新たに始めるには、良い種目でした。

親が転勤族で、中学校は3つも通った私は、演劇部やバドミントン部に、1年ずつ属していただけで、高校から運動部に入りたいが、受け入れられるだろうか?と、思っていたので、まさに、的確な選択をしたこととなります。

かくて、初心者ばかりで安心と、その時はおもっていたハンド部に入部し、一粒で何百メートルも走れそうだから、グリコと名付けられた私は、各々、同じく納得できたり、できなかつたりする名前をつけられた、イクラや、イチゴや、チャーや、モモコや、ケロヨンや、ドンちゃんたちと、その時は、まだ予想もしなかった、激しくも熱いハンド部生活を、始めたのでした。



## 寝屋川クラブ会報

私は、今でこそ「背が高い」と、わざわざ言われることのない良い時代になりましたが、その当時は、親戚からも「そびえたつよう」「エベレスト」と言われた、身長169cmで、顧問の北マンこと、北岡先生からも、おまえはゴールキーパーや、といわれ、キーパーを始めました。

先輩のバンさんから、ゴールの四隅にシュートされても対応できるような柔軟性や、止めたボールを素早くスローするよう教えられ、滑り込んだり、ジャンプしては、ボールを拾ってロングスロー、という練習をしたのを覚えています。

実際には、新入生のシュートは、結構間近から真正面ばかりに打ち込まれて、毎夜直球ボールが目の前に飛んでくる夢に、うなされた日々でしたが。

その後、キーパーからフィールドに変わり、「シュートや、シュートや」と、北マンから、怒鳴られ続けました。

練習では、フリースローから、ゴール枠ぎりぎりの気持ちの良いシュートを、決められるも、試合ではなかなか決められないのは、今、練習レンジでは、気持ちよくボールが飛ばせるのに、コースに出ると、思ったのとはまるで違う方向に飛んで行くのと、よく似ているなあと思います。(ゴルフの話です。)

1つ上の先輩方、ムーミンさん、タラさん、ガムさん、ランマルさん、レオさん、バンさんたちは、1年生の私たちから見ても、たくましくも、大人っぽい先輩でしたが、校内でも、なぜか、一目おかれていたようにおもいます。

そういう自分たちも、2年、3年と進むうちに、女子ハンド、と呼ばれる一団になっていくとは、誰が想像したでしょうか。

というか、ほかの女子と同様、ピンク色のぼんぼんをつけたゴムやら、ピンを髪につけていた私たちなのに、「サッカー部と、ラグビー部と、ハンド部に女子は、いない」とか、言われていたのは、何故だったのか、ほんとうに不思議です。

と、言いたいところですが、実際、来る日も来る日も、ハンドコートで走り、投げ、転がり、表も裏も真っ黒に日焼けし、校内のバスケ大会などでは、反則とられまくりのハンド部員。

入部して1、2年も経ったころには、「いま、槍投げ選手に変わって言われたら、変わってもいい」と、おもえる生活でした。

私にとって、ハンドボールは炎天下、土と砂にまみれ、ディフェンスに体をぶつけて、倒れこんで、また砂まみれ、というスポーツで、よくテレビで見る、屋内コートでやっているハンドボールを見ると、自分がやっていた種目と同じには、どうも思えないのです。

唯一、体育館内のコートで練習したのは、北岡先生の特別な計らいで、社会人チームのジャスコの練習に、参加させていただくというので、三重県に合宿に行ったときでした。

私たちの背丈や、肩幅なんて、子供のようにおもえる大人の選手たちに混じって、半べそかきながら、走りました。

イクラが、夢のような練習だった、と言っていたのを、覚えていますが、私には終始、恐怖の練習で、最後にチームに混じって円陣を組んで叫んだときの反響音が、記憶に焼き付いています。

というわけで、高校生活は、部活と学園祭のみだったように、記憶しています。

「貴重な高校生活に、もっとやりたいことが、山ほどあるのに」と、いう思いが、周期的によぎりながら、「ハンドを、あきらめたくない」と毎日、練習に出て、試合に勝ったり負けたりして、心も筋肉も成長しました。

やりたかった山ほどのことが、何だったか覚えていないですが、いまでも、高校時代のハンド部は、楽しかったと、思い出します。

私は、卒業後から東京に移り、大学や、仕事や、結婚などをしながら、海外に住んだりもして、年月がすぎましたが、国籍混在の家族と、今は、また東京に住んでおります。

今後は、いろいろな道を歩んだ皆さまと、再会できるのが楽しみです。

最後になりましたが、会報編集の労をとってくださっている皆様、ありがとうございます。

次の執筆バトンは、同期の荒木 克洋さんか、河江 覚さんに、リレーしたいと、おもいます。

61期 小南 陽平

### 教育実習生として

61期生の男子キャプテンで、ゴールキーパーをしていた、小南です。



今年は、教育実習(3年の現代社会を、担当させて頂きました)で、久しぶりに母校に帰って来る事が出来て、感慨深かったです。

現役の頃から、「あ、リレー作文ってあるんや〜。まあ卒業して、50年くらいしたら、書くかなあ」と、思っていたら、まさか卒業して5年で、回ってくるとは思いませんでした。

さて、僕の現役時代は、あまり褒められたようなものではないです。

2年生から、3年生になる前に、いきなり部員が、当時のキャプテンを含めて、4人も辞めよるわ(ちなみに、そのうちの1人が、教育実習生として、今年帰って来ていました)、キャプテンを、引き継いだのは良いものの、残った部員を上手くまとめていけずに、皆から、毎日ブーイングを喰らうわと、胃が痛い日々を送っていました。

赤星先生と、コーチをして下さった、14期の加堂先生にも、日々、迷惑をかけっぱなしでした。

この場を借りて、お礼と謝罪を、言いたいです。

ちなみに、今も時々、あの頃の夢を見ます。

内容は、あのグラウンドで、部員相手に、「お前ら、言う事聞けや!」と、マジ切れして、叫びます。

そして、その後、高校なんて、とっくに卒業している事に気付いて、目が覚めるんですけどね…。

さて、教育実習生として、今年母校に帰ってきましたが、驚く事ばかりでした。

グローバル・コミュニケーション、グローバル・サイエンスといった、コース制が導入されていたり、授業時間は、65分になっていたりと、戸惑う事が、凄く多かったです。

初めて、教卓に立った時には、それほど、人前で話すのが得意でなかったのが、緊張して上がってしまい、声は裏返るわ、頭は真っ白になるわと、何度、心が折れそうになった事か…。

そんな中でも、寝屋川高校の生徒達は、挨拶を、いつでも、どこでも、してくれていました。

自分が高校時代は、何気なくしていた、挨拶でしたが、いざされる側になって初めて、多くの諸先輩方がおっしゃっていた、挨拶される事の大事さに、気が付きました。

挨拶をするというのは、相手を認識しているという合図でもあると、僕は思います。

「あなたの事を、見ているんですよ」と、いう事の、意思表示として、機能していると思います。

特に、悩んでいる時や、落ち込んでいる時に、元気な挨拶を貰うと、「あ、自分の事を見てくれている人が、いるんだ」と、感じ、孤立している気持ちが、和らいでいきます。



## 寝屋川クラブ会報

これは、僕が今、大学で研究している、「児童虐待への、対応」に対しても、機能する大事な要素、（児童虐待の背景として、子育てする親世代が、地域や親戚からの孤立があると、いわれています。）だと、考えています。

僕が、寝屋川高校でやってきて誇りに思う事は、ハンドボールや、勉強、文化祭は、勿論ですが、挨拶の大切さを、忘れてはいけません、と思います。

引退した3年生を含めた、現役の皆さん、挨拶だけは、絶対に忘れないで下さい。

勿論宿題も…。

僕の近況ですが、1年浪人した後、大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科（現、地域保健学域教育福祉学類）で、4回生をしています。

主な研究テーマは、前述した児童虐待と、スクールソーシャルワークという、教育問題に対して、福祉的観点から解決を図る（分かりにくい説明で、スイマセン）取り組みの、2つです。

進路としては、大学院への進学を考えている所で、今は、大学院入試の為の、英語の勉強と、卒業論文作成に、追われている所です。

（文系なのに）高校時代から、英語を苦手にしてきたツケを、今、払わされている所です。

高校生の皆さんは、挨拶と共に、文系・理系問わず、英語は、しっかりやっておいて下さいね。

書いている本人が、恐ろしくまとまりの無い、文章だと思ったので、読んでいる側からすると、何が言いたいのか、さっぱり分からない文章だと、受け止められたかもしれません。

長々とした、文章にお付き合い頂き、ありがとうございました。

卒業して以来、OB会に、お盆にも、正月にも、顔を出せていないので、今年こそ、都合をつけて、行きたいと思います。

どちらも、行けなかったら、ごめんなさい（笑）。

62期 西 実里

### 教育実習生として

寝屋川高校OB・OGの皆様、初めまして、もしくはお久しぶりです、

62期卒業の、西 実里（にしみのり）です。

今回は、教育実習番外編ということで、リレー伝言板を書かせて頂きます。

私は、現在、早稲田大学に通っており、5月から6月にかけて、保健体育科の教育実習生として、母校・寝屋川高校に、戻って来ました。

長かったような、短かったような、4週間でしたが、とにかく、印象的だったのは、赤星先生の、優しさでした。

現役時代は先生にいつも「西一！、枠の中や！！」と、怒鳴られていましたが、実習中は、先生の優しさに、本当に助けられました。

あんなに怒鳴っていた先生が、実習中一度も、私に対して、怒鳴らないどころか、いつも優しい笑顔で、接して下さい、「まあ、頑張れよ」と、声を掛けて下さって、62期で、一番怒られていた私には、夢のような感じがしました。（笑）

赤星先生、本当に、ありがとうございました。

そんな赤星先生に、高校時代ハンドボールを教えて頂いたおかげで、ハンドボールが大好きになり、大学でも選手ではありませんが、マネージャーとして、ハンドボール部に所属しています。

早稲田が、どんなレベルなのか知らずに、飛びこんだのですが、入ってみると、女子も男子も、とてもレベルが高く、インターハイ出場校から、推薦で選手を取り、毎年、インカレ（全日本学生選手権）に出場しているような、チームでした。

実業団にも、卒業生をたくさん輩出していて、私の同期も、女子1名、男子2名が、実業団のチームに、進む予定です。

そんな世界に、ひとり出て来て、寂しかったことも何度もありましたが、そんな中で、たった1回、寝屋川高校の同期に会って、とても嬉しかった、思い出があります。

大学では毎年、慶應義塾との早慶戦、関西学院との早関戦、慶應義塾・明治との早慶明戦（男子のみ）の、3つの定期戦が、行われています。

大学2年生の時に、早稲田大学の体育館で行われた、早慶明ハンドボール定期戦で、早稲田対明治の試合を、観戦していたら、見たことのあるような人が、モップ係をしていました。

知り合いと似ている人なんて、どこにでもいるか、と思って、あまり気に留めなかったのですが、定期戦が終わって、片付けをしている時、慶應の上級生らしき人が、「清家一！」と、下級生を呼んでいました。

何と、その下級生が、寝屋川の62期男子の、清家君だったのです。あのグラウンドのコートで、隣で練習していた人と、早稲田の体育館で再会するとは、思ってもみなかったもので、とてもびっくりしました。

最後に、現役の皆さん！、実習中は、なかなか練習に行くことが、出来ませんでした。私が、少しアドバイスしたことを、すぐに実行しようとしてくれていた、素直な姿が、とても嬉しかったです。

実習が終わって、東京に戻って来てしまったので、なかなか寝屋川に顔を出すことが、出来ませんが、機会があれば、是非とも、練

習や試合に、顔を出したいと思います！。

近畿、目指して、頑張ってください！



63期 四田 裕則

まず、現役時代に指導していただいた、清家さん（62期）をはじめとする、先輩方、加堂さん（14期）、赤星先生に、お礼申し上げます。

そして、1つ上の清家先輩の、ご指名頂きましたので、書きたいと思います。

僕（63期）が、現役の頃のハンドボール部は、忘れられない試合がたくさんあり、その中でも、2年生の秋、新人大会（対、春日丘）の試合でした。

普段の練習試合では、負けたことがほとんどなく、この大会も、勝てると思っていました。

おそらく、部員全員にも、そのような油断があったのではないかと、思います。

しかし、前の試合に勝って、勢いに乗ったままの相手に、主導権をにぎられ、いつの間にか、点差をつけられて、最終的に負けてしまいました。

試合終了直後、「相手は、寝屋川に勝ったぞ！！」と、大喜びしていました。

その時の悔しさと、後悔は、今でも忘れません。

いつも通りやるというのは、とても大切なことですが、それが原因で、油断してしまった、結果です。

決して、「普段通り」と、油断せず、いつも、全力で戦ってほしいと、思います。

そして、また、考え方を変えてみれば、勢いにのせ、気持ちを一つにすると、勝てない相手にも、勝てるということです。

トーナメントの組み合わせが、悪いな・・・などと、決して、思わないでほしいです。

卒業して、現在、奈良県の教育大学で、ハンドボールを続けています。

週3（1日、3時間）で、活動しています。

高校で、今まで、興味もなく、何気なく始めたハンドボールに、今では、完全に、はまってしまいました。





ただ、がむしゃらに頑張っていた、高校時代とは違って、大学では、自分に余裕を持ちながらプレーができ、また、違ったプレースタイルが、持てると思います。

高校を卒業しても、続けてみるのも、ありだと思います。

また、別に、現在、寝屋川市の中学生を対象とした、ハンドボールチームを結成し、人数が少ないながらも、活動しています。

中学生がハンドボールを学び、ぜひ寝屋川高校に入学し、ハンドボールを続けてほしいものであります。

そして、同期や後輩たちも指導にきて、一緒に身体を動かしましょう！

さて、最後に、次にありがたい言葉を、僕のことをとても慕っている、64期の青木君に、書いていただきたいと思います。

どうぞよろしく！

### 63期 山里 順也

62期生の松前先輩から、ご指名を頂いたので、少し書かせて頂きたいと思います。

高校を卒業して、大学に入学してからは、高校と同じようにハンドボールを続けようと思い、ハンドボール部に入部しました。

しかしながら、学科上、課題が思ったよりも忙しく、またバイトもしていると、なかなかしんどかったので、1年程で辞めてしまいました。

部活を辞めてからは、少し物足りなくもなりましたが、大学生らしい生活を送っています。

と、僕の卒業してからの話は、一旦置きまして、現役時代の事を振り返ってみようと思います。

現役時代と言われて、なにを思い出すかといいますと、やっぱり一番に思い出すのが、加堂さん(14期生)に怒られていたことですかね。(笑)

僕は、しょっちゅう怒られていました。

正直、現役時代は、なんでこんなにも怒られるんだと、思っていました。今となっては、有難かった事だと思っています。

僕がハンドボールをしていて、一番苦しんでいたのが、ボールを掴む事でした。(笑)

僕は人一倍手が小さく、また握力が、特に強いという訳ではなかった。なので、いつも松ヤニでベトベトにしなが、練習していました。松ヤニが着いた服を見ると、いつも思い出します。

僕らの時代は新入生が多く、レギュラー争いが激しかったのを、覚えています。

ユニフォームすら貰えなかった時は、悔しくて悔しくて、仕方なかったです。

その悔しさのあまりに、自主練をしていました。

同じ仲間同士で、スキルを高め合っていたのを、懐かしく思います。

思い出せば、色々と語る事もありますが、何よりもハンドボールを通して、大切な仲間が出来た事が、一番嬉しかったです。

僕らの代は仲が良く、練習中も凄く、騒がしかったのを覚えています。

その時のキャプテンであった四田には、相当迷惑をかけましたね。(笑)

そんな扱いづらい僕たちを、一生懸命自分なりにまとめてくれていた、四田には感謝しています。

また、可愛い後輩も入ってきて、先輩、後輩の関係もないぐらい、仲良くしていました。

僕らが引退する際に、後輩が泣いてくれた時には、本当にいい後輩を持ったんだと、改めて実感しました。

今の現役生には、上下関係なく仲良く、お互いを刺激し合って、スキルを高め、指導者の方に怒られても、落ち込む事なく(笑)、頑張りたいと思います。

頑張った分、卒業してからの、大切な思い出となると思います。

結びとなりますが、高校、大学共にハンドボールを通して色々な出会いが出来たことに、感謝したいです。

という事で、次にこの伝言板を書いてもらう人を、指名したいと思います。

可愛い可愛い後輩の、64期 杉森 克矢君に、お願いしたいと思います。

①「会員リレー伝言板」では、会員の皆さんを、大体10年単位8グループに分けて、皆様に近況や、ハンドボールへの思い、現役の時の思い出等を、自由に語っていただき、同期、先輩、そして後輩へリレー形式でつないでもらって、会員の皆さんに紹介をし、親睦の輪を広げていきたいと思っています。

②本文で、今回の寄稿者の方には、次回の寄稿者の指名を行ってもらっています。

次回指名された方には、次回会報発行時に、OB・OG 会役員より、原稿のお願い・要領等の連絡をさせていただきますので、その節には、ご協力の程、よろしくをお願いします。

③OB・OG 会会員の皆様、今回掲載されました内容について、感想、コメント、あなたの熱いメッセージ等を、事務局・20 期寺西まで、[メール kkteranishi@yahoo.co.jp](mailto:kkteranishi@yahoo.co.jp)か、同封の返信用封筒で、お寄せください。



### < 編集後記 >

① 近年、マスコミに掲載されるサッカーの記事は、目覚ましいものがありますが、数少ないハンドボールのニュースとして、ハンドボール日本協会のホームページに、昭和 35 年より月 1 回発行されている機関紙が掲載されています。

昭和 20~30 年代にかけての、寝屋川高校ハンドボール部全盛時に活躍された諸先輩の活躍ぶりが、掲載されています。

会員のみなさん、一読の価値、ありますよ。

・インターネット検索

日本ハンドボール協会—お知らせ—11/04/01 (金)

機関誌バックナンバー

②関連サイト

・大阪ハンドボール協会

大阪高体連ハンドボール専門部

・寝屋川高校ハンドボール部 OB・OG 会ホームページ (記事一部、未更新)

